

地域学校協働活動事業訪問

【第1回おおたまコミュニティ広場（第11回大玉村教育フォーラム）】

訪問日：令和2年2月1日（土）

場 所：大玉村農村環境改善センター

内 容：第1部／小・中学生の発表

「私たちが考える大玉村の魅力と大玉村の未来」

第2部／フリートーク

「子どもたちが考えた大玉村の未来について感じたことを語り合しましょう」



2月1日（土）。第1回おおたまコミュニティ広場が開催されました。これは、より多くの方々に大玉村の教育を理解してもらうため、これまで10回に渡って開催されてきた「大玉村教育フォーラム」の名称を変更して実施したものです。会場には、児童生徒や学校関係者、保護者、地域の方々、行政関係者など、大玉村内外から多くの参加者が集まり、児童生徒の発表を聞いたり、意見交換を行ったりしました。

第1部の小・中学生の発表では、総合的な学習の時間等で、大玉村の魅力や大玉村の未来について調べたり、話し合ったりして、自分たちで感じたことや考えたことを提言として発表しました。

大山小学校6年生は、障がいのある人も高齢者も安心して住める村にするために、バリアフリー化の必要性を訴えました。玉井小学校6年生は、村産米のおいしさや魅力を発信するために、米フェスの開催等を提案しました。また、大玉中学校1年生は、大玉村の伝統工芸を将来につないでいくためのアイデアを発表しました。最後に、大玉中学校2年生が、SDGs（持続可能な開発目標）の視点から見た、笑顔で住み続けられる地域づくりの方向性を問いかけました。

第2部のフリートークでは、児童生徒の発表をもとに、参加者がグループごとに大玉村の未来について語り合いました。どのグループも時間が足りなくなるほど、活発な意見交換がなされていました。参加者からは、「子どもたちが村のために一生懸命に考えた意見を、これ（発表）で終わりにするのではなく、地域みんなで力を合わせて、できることから実行していこう。」という声がありました。発表した児童生徒は、「自分たちの考えを地域の皆さんが受け止めてくださり、みんなで真剣に話し合ってくれたことが嬉しかった。」と笑顔で語っていました。

今回のおおたまコミュニティ広場の取組では、地域の人たちが児童生徒と関わることで、子どもたちの豊かで深い学びが形成されていました。また、地域の人たちにとっても、これまでになかった新たな発想や多面的な考え方を児童生徒から受け取ることができていました。大玉村が掲げる「学びの還元と循環」が具現化された姿を見ることができました。